

九月の海辺にて

-なまイキ少年のアブない闇バイト-



夏休みが終わって
ひと気のなくなった海岸に
やってきた変態おじさんと少年。
少年はおこづかい欲しさに
アブない闇バイトをすることにして……

R-18
ADULT
ONLY

18歳未満の
購入、閲覧禁止

この度は「九月の海辺にて」を
お買い上げいただき
ありがとうございました。

少しでも楽しんでいただけたら
幸いです。

2023/11/12 ストレンジャー

pixivFANBOXのアカウントが
凍結されてしまったので、
ファンティアをはじめました。

これまで支援してくださった皆様に
謝罪と感謝を申し上げます。

HP <http://syota.buzama.com/>
MAIL undergroundou@gmail.com
pixivID undergroundou
Twitter under_groundou
Fantia <https://fantia.jp/fanclubs/503233>

* 本作品は成人向け作品です。
18歳未満の方の閲覧、購入を禁止しています。
この作品はフィクションです。
実在する人物、団体とは一切関係はございません。



夏休みも終わって
うだるような
暑さも

ようやく
落ちついてきた
9月半ばの
土曜日――

もう海水浴も
できない
海の家もない
やってない

カモメとか
クラゲしか
いない

ゴミだらけの
濁った海岸に
ボクは
おじさんと
やって来た――

……誰も
いないね

だから
言っただろ？
ここなら
誰にも
気づかれない……

僕たちには
好都合だ。

そうなの？

遊びに来た
わけでも――

ましてや
ゴミ拾いの
ボランティアに
来たわけでもない



だっ
これ
たっ
くん
から
と
あ
くん
と
な
コ
ト
や
な
コ
ト
な
コ
ト
……

……っ

するん
だもん……♡



この鼻の下が
伸びている
メガネのおじさんは
行きつけの
ゲリセシで
最近知り合った

三万枚以上の貯メダルを
持っていて
会えばそのメダルで
遊ばせてくれる
気のいいおじさん……
だと思っただけ——

それじゃ
脱いでみようか
たっくん♡

ギョッ!

ビクッ

ちよつと
違ったみたい。



プールへ行くにも
ハンバーガーを
食べるにも
ゲーセンで遊ぶにも
お金が掛かる――

何をするにしても
金金金。
母子家庭の
我が家には
いつもお金が
なかった――

言われた通り
海パン履いてきたけど
泳げないんじゃない？
意味ないんじゃない？

自分で
脱げるんだけど……

そんなコトないさ。
チンポジクイズで
遊べるだろう？

たっくんの
チンチンは
いま右向き!!

いっくのオ
やらせて
ほちいの♪

なに
そのゴミみたいな
問題……
この水着
去年から着
ちよいつと
キツいんだよね

ぽっ〜ん



たっくんの夏休みの主な過ごし方

AM 09:00	起床
AM 10:00	友達と通話しながらゲーム
PM 12:30	昼食(冷凍ごはんと卵でドライカレーを作る)
PM 13:00	ゲーム再開(プレイ内容に関して若干モメる)
PM 15:30	方向性の違いにより解散
PM 17:00	「五時に心中」を鑑賞
PM 18:00	ソロプレイでゲーム再開(素材集め)
PM 20:00	母帰宅
PM 23:30	動画を観ながら寝落ち







.....
っ

ちよう
ちよう
ちよっと
オ...

.....
っ



こ...
これが
リアルシヨタの
ホーケー無毛
チンポかあ
ハシヤ

やっぱり
三次元の
生チンポは
違うねエ...
ハシヤ

ボクのどめ色の
カスチンと比べて
全然黒ずんでなくて
きやわいい♡
ハシヤ

おおっ
!!!

ハシヤ







だからもし
バレても
論破
できるでしょ

それじゃあ
お兄さんと
ムキムキ体操
してもよっか♡



今日は
遅かったね
おめかしして
こんな時間まで
どこ行ってたの？

なにかも
大量のお菓子…

そこで
知り合った人が
母さんの彼氏
だつてことも。



ズルン♡♡

ズン♡♡

7♡♡

ほおら…
ピラダに…

スツ

ムキムキ
先っぽは
こんには。

7ツ

潮風で
スースー
する……

まだ誰にも
触れられてない
びゅあびゅあ
ピンクの敏感
おかめちゃん♡

…ほんとに
シコシコしたこと
ないんだねエ…

全然チンカス様も
溜まってないし
イカ臭くも
ないんだもんア

僕がたつくん
ぐらしいの頃は
エツチな漫画
読みながら

よくこうやって
オチンチンを床に
押し付けたもんさ

なんで
床？

オナリ方が
よくわかん
なかったんさ

今日はお兄さんが
手取り足取り
色々教えて
あげるからねん

マイルスイート
プリンちゅ♡

…吐きそう
なんだけど

キラ

キラ

キラキラ

ズッ

ワッ

ワリッ

てかおじさんも
脱いでくんない？
オレひとりだけ
チンコ丸出しで
バカみたいじゃん

えやダ…
大胆

あとで素っ裸で
免許証
口にくわえた写真
撮らせて
もらうからね
オレの写真も
悪用しないでよ

ええっ
○○○とは
思えない発想
なんだけどオ…
将来ロクな大人に
ならないゾ!!

ほっとしてよ

…けど
それはそれで
興奮しそうだなア…
アへ顔ダブルピース
してあげるから
かわいく撮ってね。
たつきゅん♡

ウザ…



セッ♡

ニカツ

ハハ
シヤ

ハナトウル…

言動はめっちゃキモだし
見た目も陰キャ
そのものだし

ヤバめの
性犯罪者
なんだけど—

なぜ
なんだろう

ボクは
この人を
嫌いになれない



親や先生みたいにくるさいこと
言わないし

…ねえ
なんで
大人の
チンチンに
毛生えて
ないの？

兄弟や
友達みたい
にケンカする
こともない

無
衛生的だし

巻き込み事故も
起きないから
脱毛したいんだ

いつも
ニコニコしてて
人の悪口言わないし
ハジスターランクも
カンストしてるし

まあ
ツルチン同士
仲良く
しようぜ!!

暑苦しいん
だけど…

会えばメダルを
くれたり
お菓子やジュースを
オゴってくれたり

知らない遊びを
教えてくれたりもする

何となく
この距離感が
心地いい…

…魚のエサに
なりたいのかな

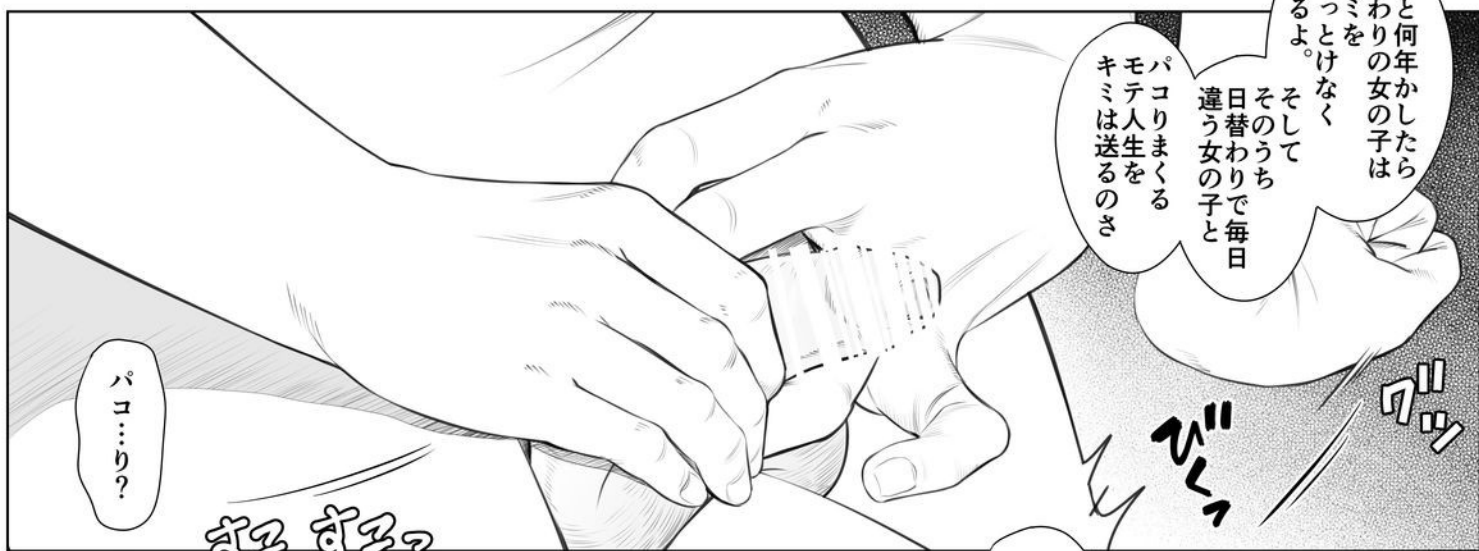
ほら僕の
好きなんだも
揉んでいいよ。
まだお母さんの
恋しい年頃だろ？

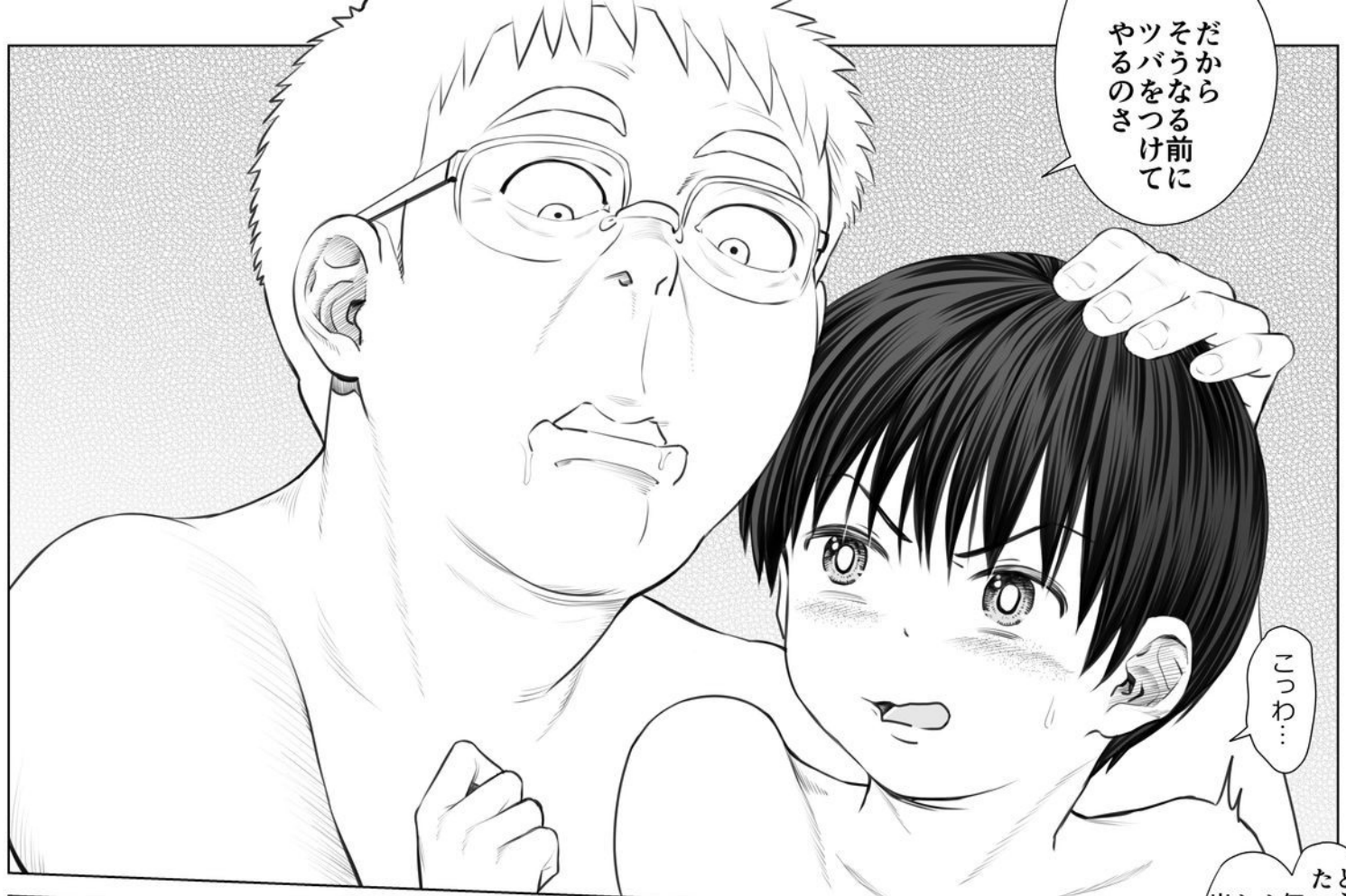
…いいなア
たっくんは。

顔はめっちゃ
カッコイイし
僕みたいに
脂肪も
ついてないし
学校じゃ女子に
モテモテで
大変だろ？

んなわけ
ないじゃん
学校じゃ
陰キャだし

…キミは
陰キャを
知らないね？





――裸のまま
夏の太陽を
浴びるのは
気分が良かった。

気分が良くて
なんだか
このまま空に
昇っていけそう
な気分です――

実際に
ボクのチンチンは
おじさんに
擦られたり
揉まれたり
しているうちに

カチンコチンに
硬くなつて
太陽の方
に伸びちや
つてる。

自分のチンチンは
肌色だと
思っていたけど
今日はつぼみから花が
咲いたように
照れてるみたいだった

♡♡♡♡♡



でもやめて
ほしいような
やめてほしいな
いような
不思議な感覚で
モジモジ
してしまう

そろそろ
かな？

何時間も
おしっこを
我慢してる時
みたいにな
落ちてなくて

ボクは思わず
目をギュッと
つぶった

このまま
イジられてたら
ホントにおもらし
しちゃいそうなの
感じだ。

その時変に力が
入っちゃって
キンタマの裏
あたりが
キーンとした。

ギューン！

キーン

もらして
しまったと
思った





目だけど
開けて
お見し
てみる
とこは
出なく
はー



やっちゃった...



そのかわりに
透明な
トロっとした
蜜でチンコの
先が濡れててー

強く照りつける
太陽のせい
で光って
みえた。

フワッ...
フワッ...

あふ...
あふ...
あふ...
あふ...
あふ...

カチン...
カチン...
カチン...

なんだか急に
力が抜けて
長いため息が
出た。

ホントに
ずつと我慢して
おしっこを
やっとな
みだいな

妙にうっとり
感じがして
徐々に緩んでいく

いっちょ前に
足ピンな
イッちゃった
んだね♡

鈍い感覚と
一緒に
しぼんでいった

イク瞬間に
体ささ
わいてた
ぞいっ♡

さっきまで
カチンコチンで
おっきくな
ってた
チンコは

グッ
グッ
グッ
グッ
グッ

ほら見て。
まだ半透明
だけども
おちくんが
ちやんが
出たア…♡

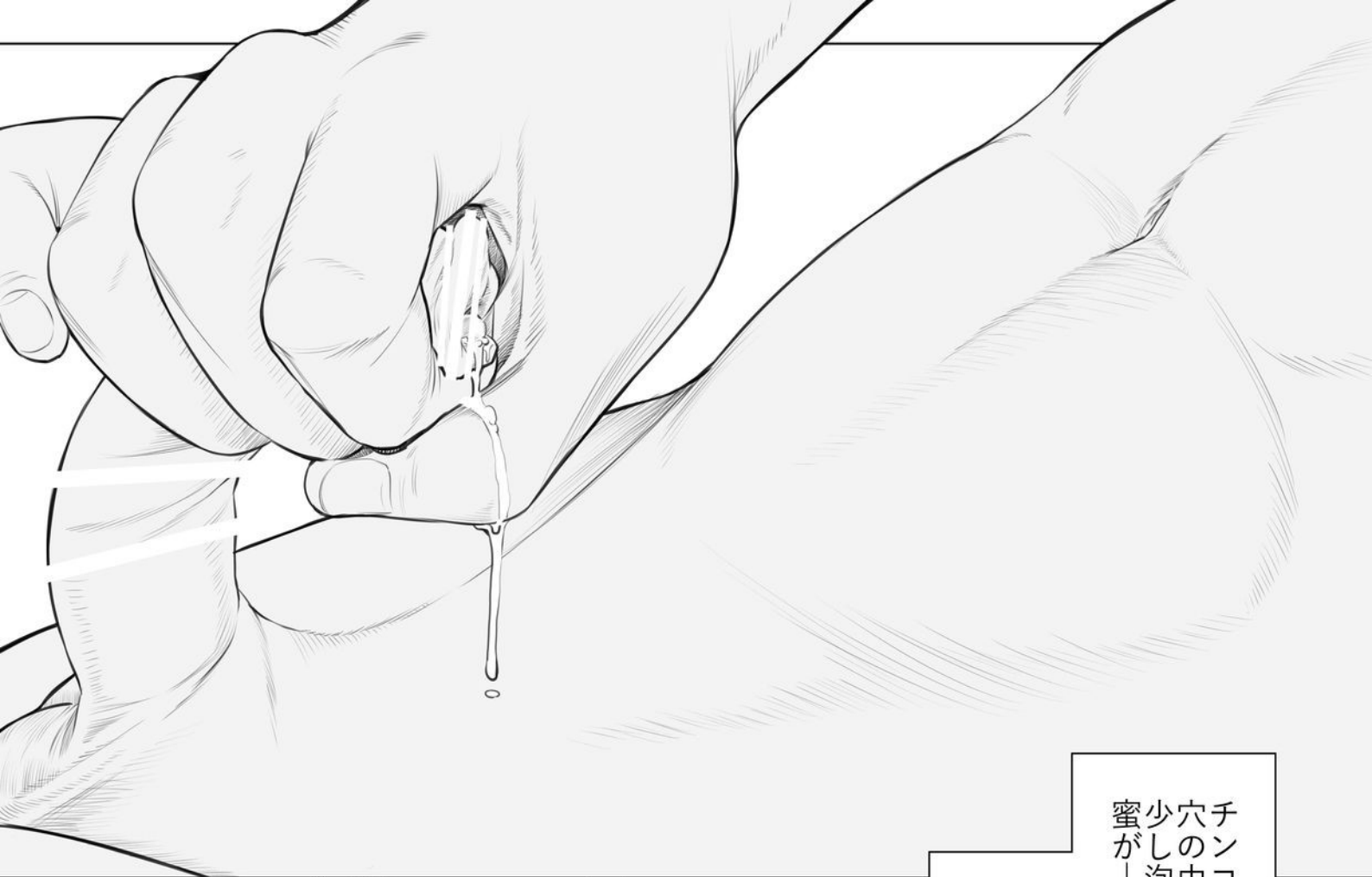
よくわからない
ことを
言いながら

おじさんは
それでも
ボクのチンコから
手を離さないで

精通
おめ
たくん!!

ヌチャ…

グブルグブル
グチャグチャ
遊んだり
みたり
した



チンコの
穴の中から
少し泡立っ
た
蜜が

たらーんと
一滴だけ
ボクのお腹に
たれた

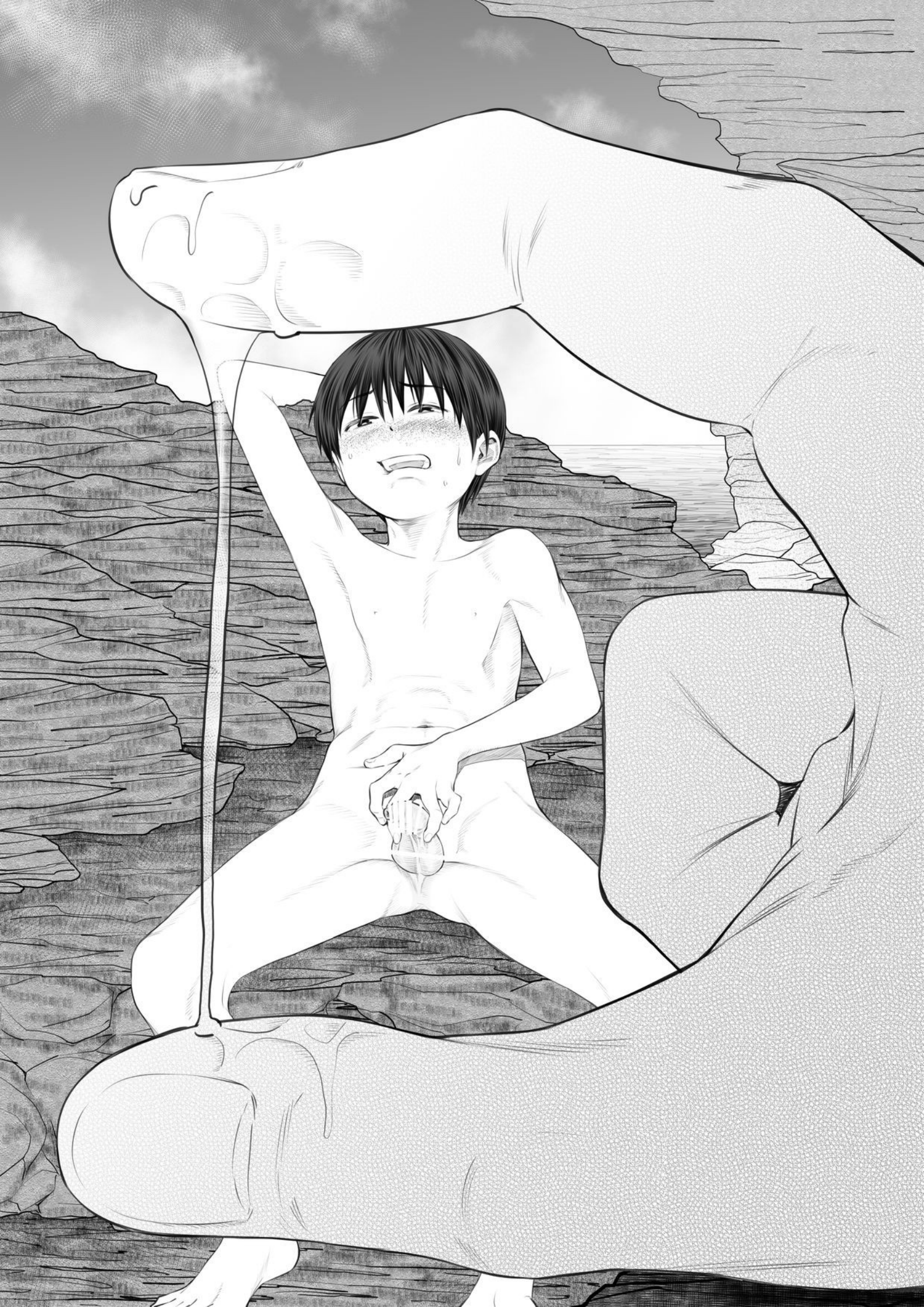




おじさんは
それを
指で
すくって――



ボクの目の前で
わざとらしく
ニオイを嗅いだり
太陽にかざして
観察したり
してた――



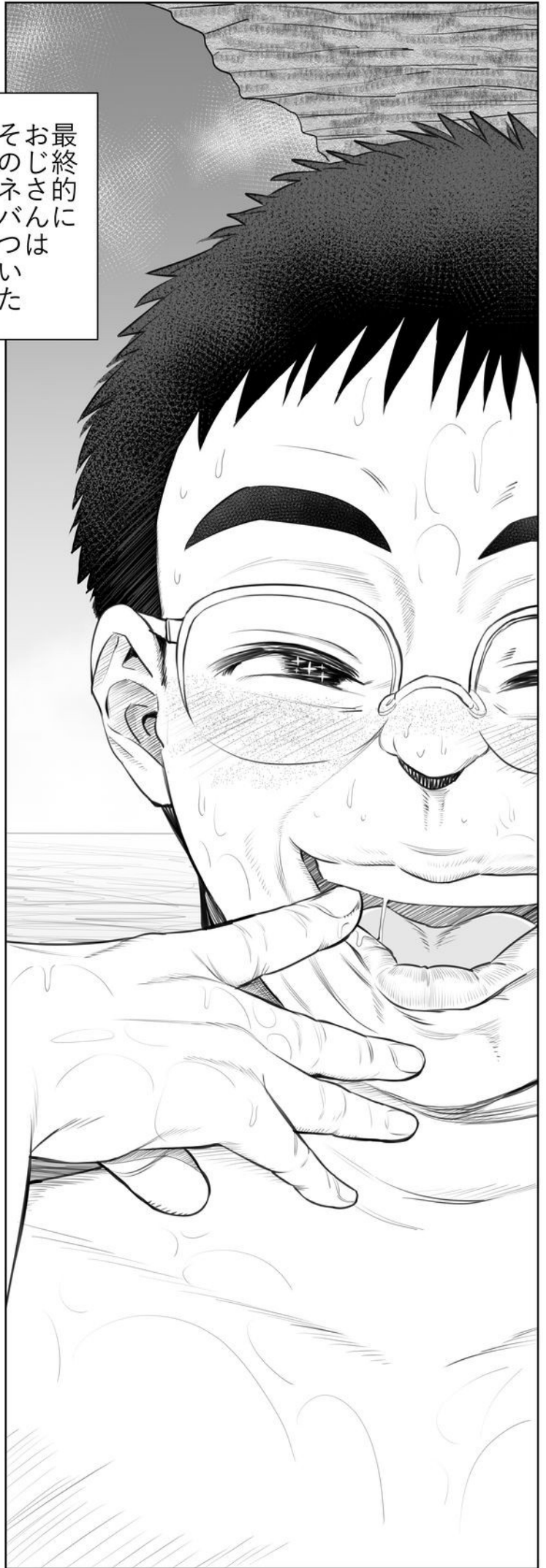
ボクは
ぐったりして
しまったて

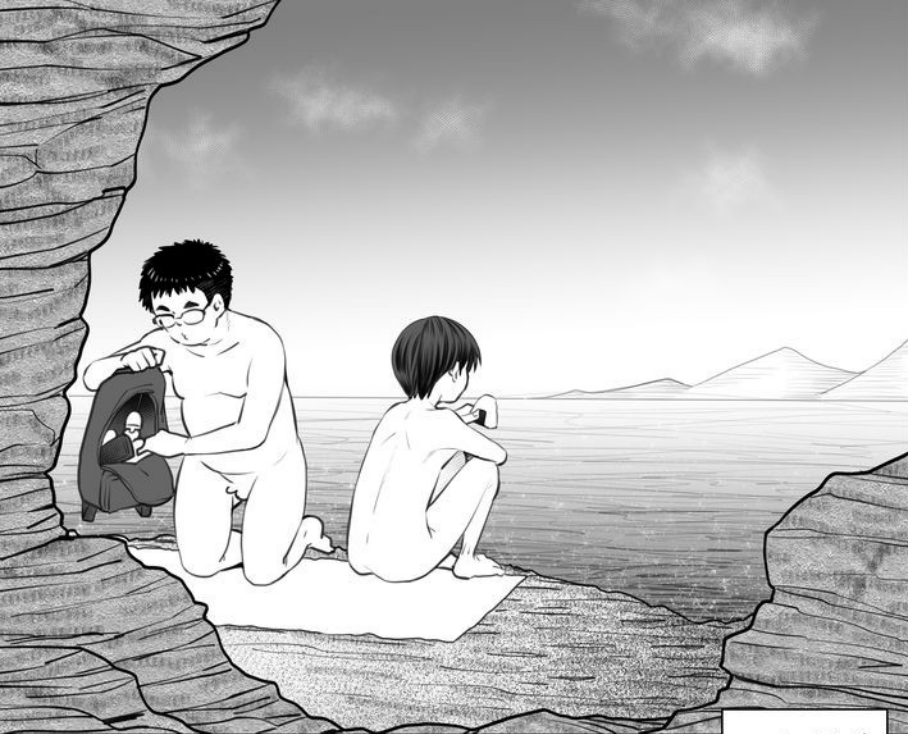
その姿を
しばらく
眺めてた――



最終的に
おじさんは
そのネバな
謎の液体を
舌で舐めた。
取っ付いた。

糸も自分も
引いていた……





ボクはもう
たぶ帰って
いんだだけ
だ

おじさんには
まだボクが
やまだコト
あるみたい
だ



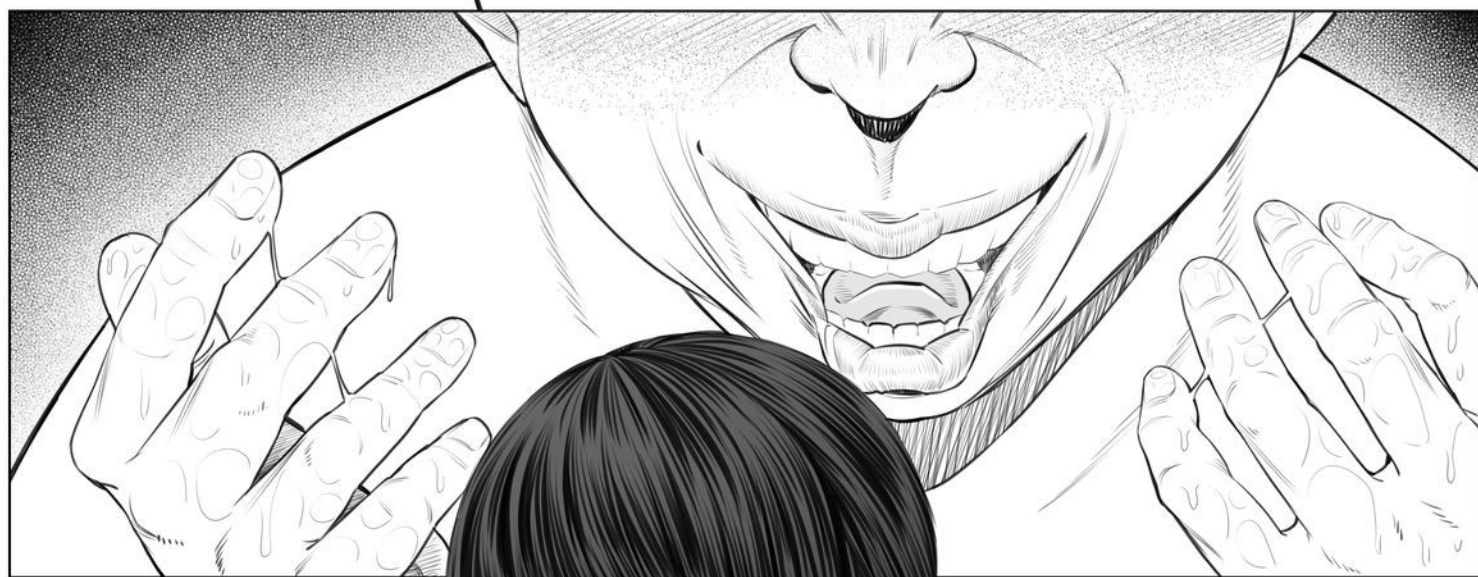
ボクの生白い体を
今からでも
焼こうと
提案してきた。

胸焼けなら
していても
やんわりと
断ったけど――



話の通じ
な相手が
な手じゃ

おじさんは
鼻息荒く
オイルを
自分の手に
塗って――



—ボクの体を
触り始めた。

おじさんの手は
ぷねぷにしてて

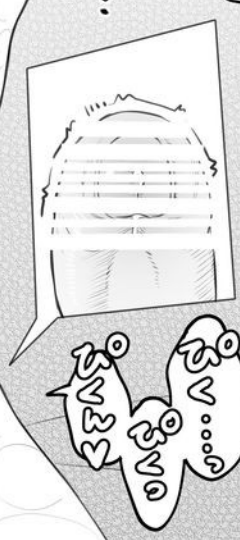
じんわりと
温かくて

マッサージ
されてる
みたい
だった。





はぁ...
はぁ...



ドゥ



ドゥ ドゥ ドゥ



体の隅々まで
オイルを塗られて
全身をテカテカの
ドロッドロに
された挙げ句――

なぜか
チンコがまた
ピンと立って――

おじさんに
しっかりと
見られた。

また触られて
何かされるん
じゃないかと
思ったけど――
今度はボクを
からかうばかりで
チンコには
触ってこなかった。



すぐに治まると
思ったけど
なかなか
小さく
ならなくて――

なんの
自分の
一部分
じゃない
みたいだ





困っているよるに
ボクをよるに
おじさんには
必要以上を
塗りつけてくる
特に
お尻への執着が
ハンパなかつた。



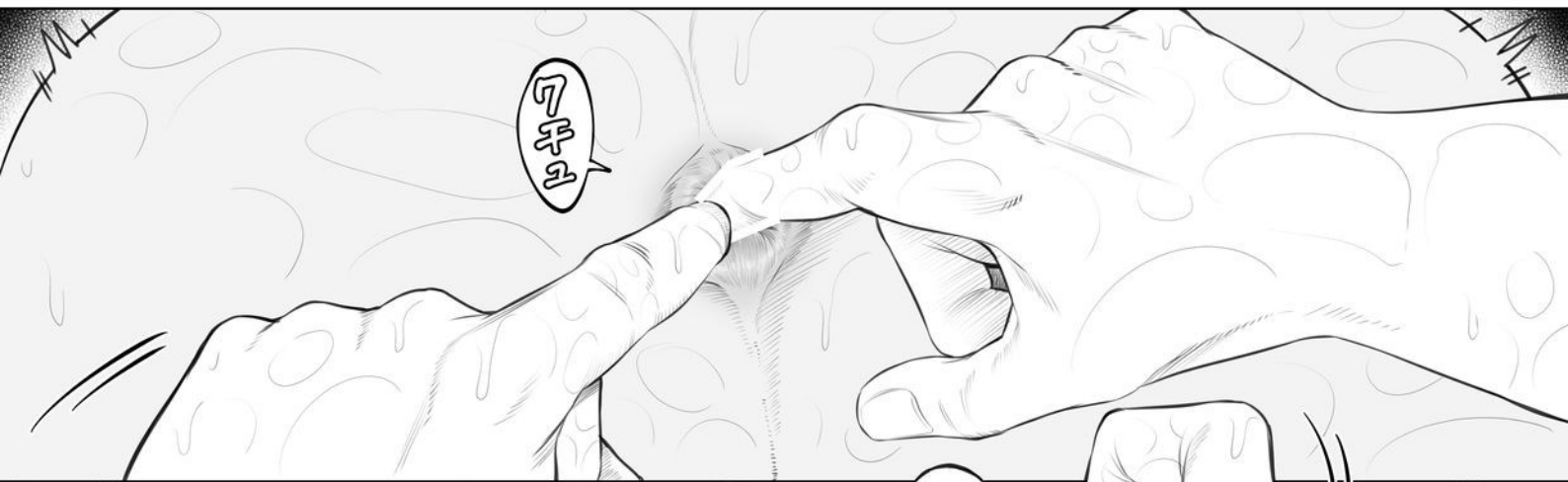
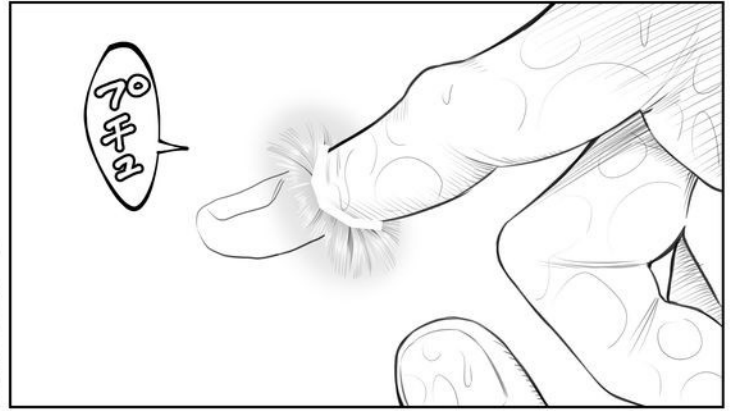
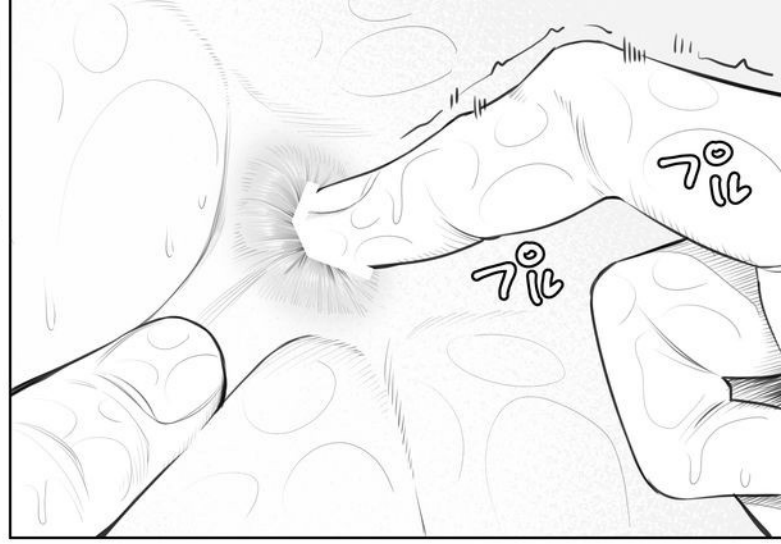
割れ目まで
広げられ
穴の辺り
舐められ
さすめ
ビビッ
た時は

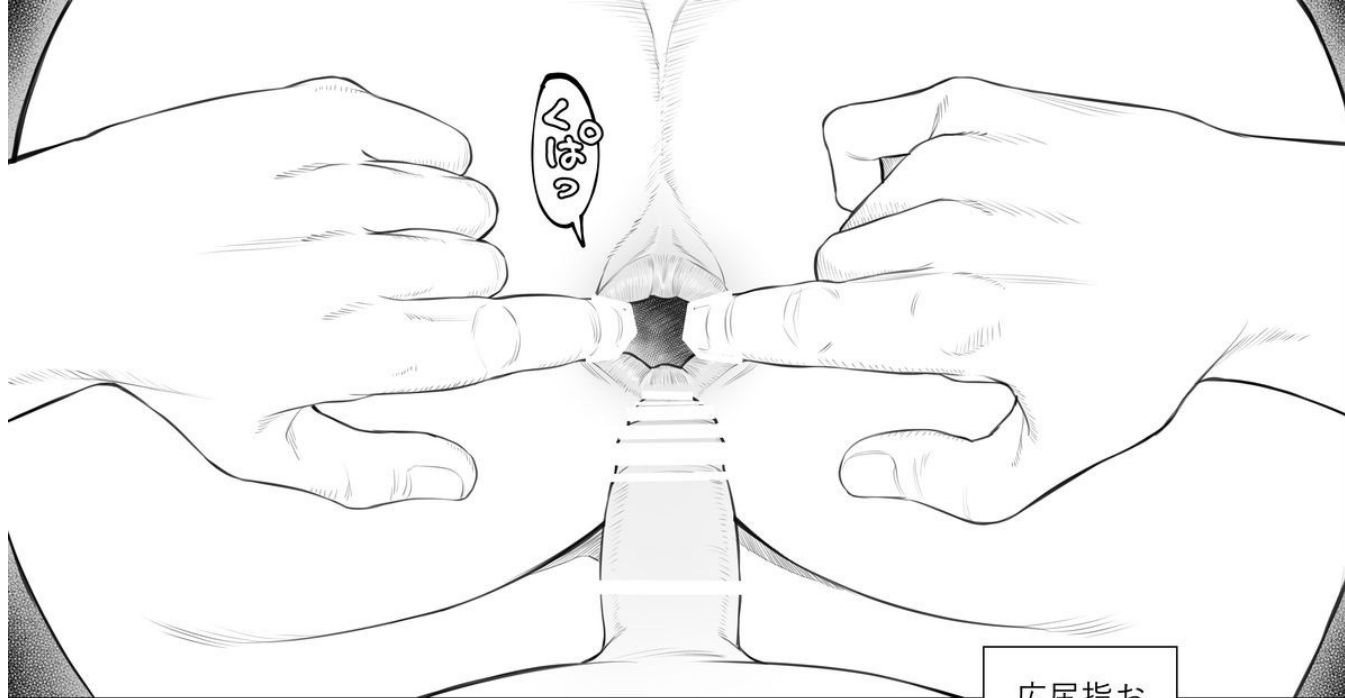


さすがに
抵抗しようと
思っただけ

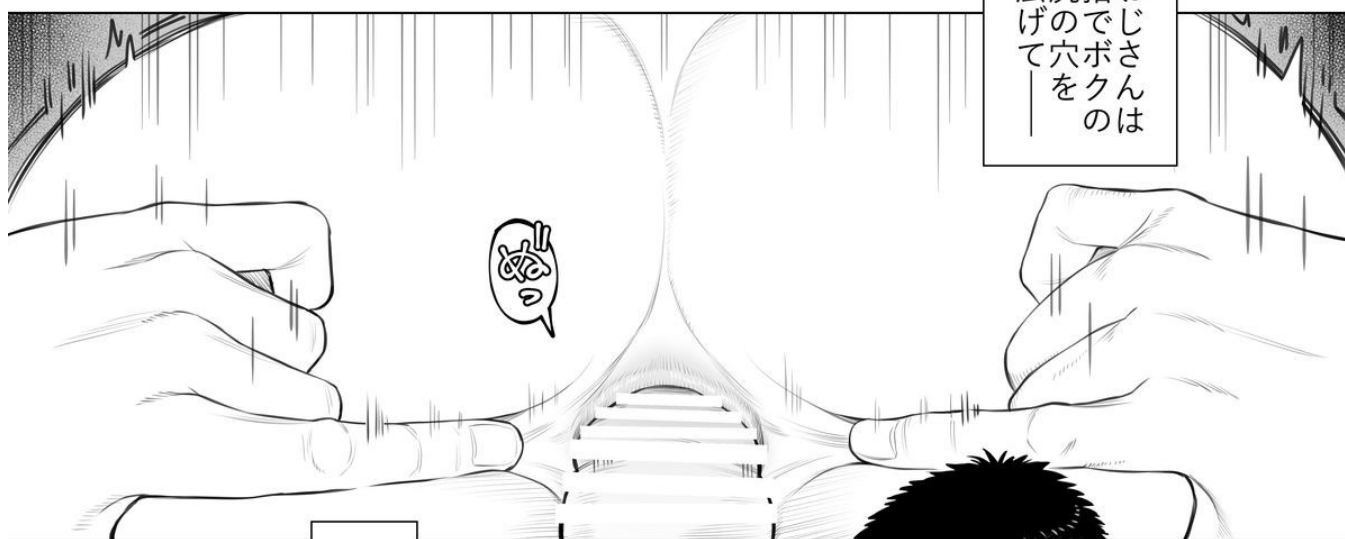
うつ伏せに
させられて
その上から
またがられ
いたから

身動きが
うまく
できない。





おじさんは
指でボクの
尻の穴を
広げて



少しづつ
穴の中に

おじさんの
親指が
挿入つた
わかつた。



ズッ
ズッ
ズッ
...

ジタバタ
暴れて
みるけど
ブクブクに
太ったおじさんの
体が重すぎて
逃げられそうも
なかった。



地面と自分のお腹に挟まれたチンチンがー

まだカチコチで体を揺らすたびに、なんだかへんな気持ちになった。



おじさんはボクの尻の穴から親指を抜いたり挿入したりを繰り返していた

チンコが落ちた気がした



力を抜いておくと、おじさんとおじさんで言われたように

ボクらのチンコは
膨らんでる

フューーっ!

お腹に押しつけ
られている
チンコが
何度も脈打って
少し痛い。

A close-up of a hand-drawn sketch on lined paper. It features two simple stick figures, each with a circular head, a single dot for an eye, and a curved line for a mouth. The figures are positioned one above the other, with the top figure slightly to the right of the bottom one.

オイルと
汗にまみれて
体中がドロドロに
溶けてしまいそう
だった

穏やかな
波の音に混じって
おじさんとボクの
荒い呼吸の
音がする。

ズンズンズン

ス" ス"
ホ" ホ"

はあー…
はあー…
はあー…

はっ
はっ
んっ♡

んっ♡
はっ



次はもっと
大きな波が
くるん
じゃないか…

次は
もっと……

て……



まる
よう
に
波
か
が
寄
せ
て
く
引
い
て
は



その
ス
ピ
ー
ド
が
少
し
づ
つ
と
く
早
く
な
っ
て
く
る



次
第
に
ボ
ク
は
次
の
波
が
こ
と
を
来
る
の
ど
こ
か
を
心
の
ど
こ
か
で
期
待
し
て
い
た

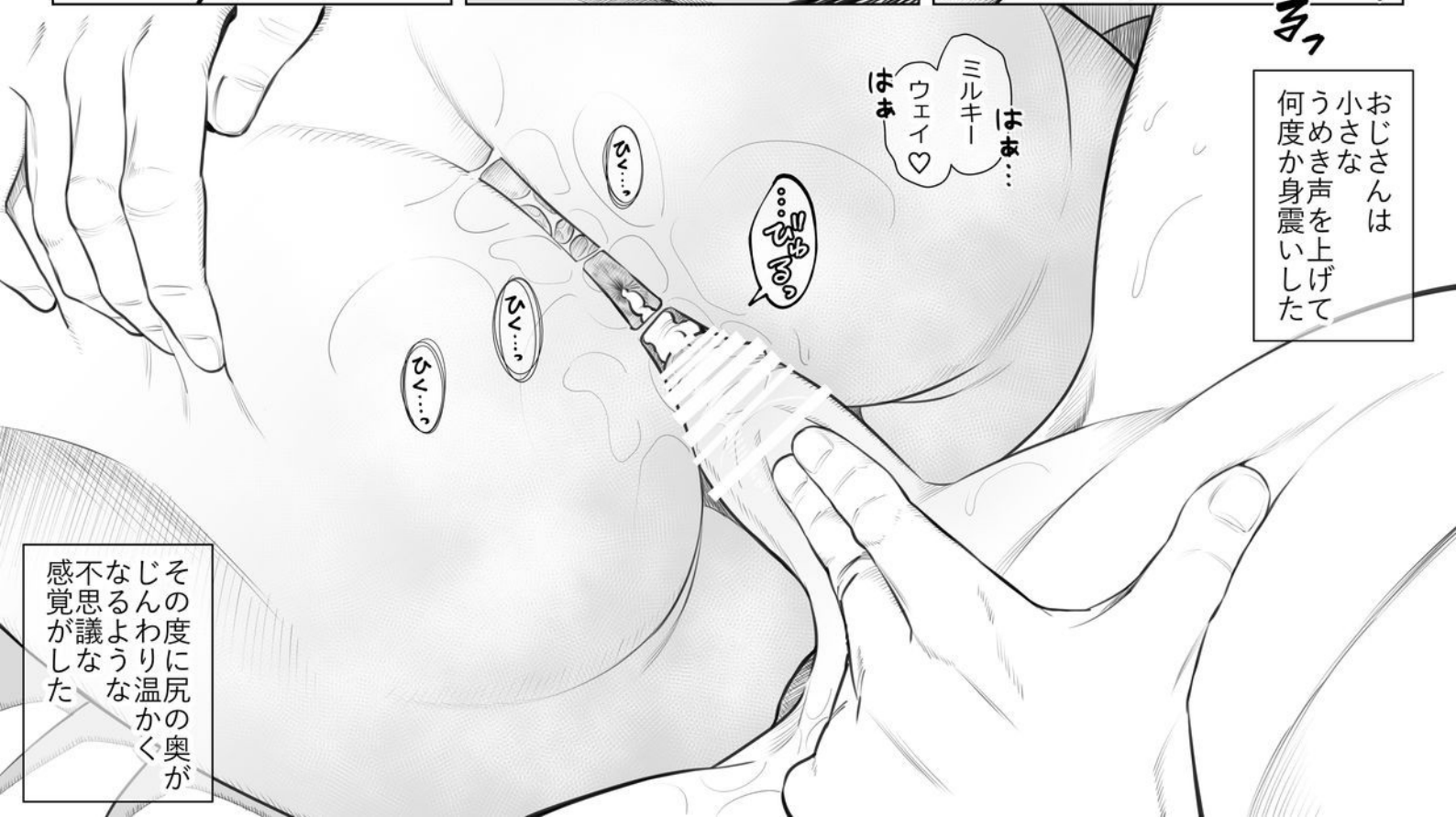








これまでで
一番奥の方に
指が挿入してきたと
感じるのと同時に――



おじさんは
小さな
うめき声を上げて
何度か身震いした

その度に尻の奥が
じんわり温かくな
る不思議な
感覚がした

おじさんは
またワケの
わからないことを
つぶやいて

ボクの体に
覆いかぶさ
ってきた

たぽっ

おぼーっ

おじさんの体も
ベトベトしてて
生肉で出来た
毛布に包まれて
いるみたいで
気持ち悪かった。

背中におじさんのチンコが
ピタリくっついて
るのがわかる。

ネチヨネチヨ
してて
そっだけ
妙に熱かった。

ビクッ

おじさんは
ボクの体を
うしろから
抱きかかえて
お腹の辺りを
まさぐり
はじめたー

その指先が
チンコに触れて
体がビクンと
反応してしまっ
た

はあ
うっひょオ..
たっくんの
処女ケツの
オマンコに
種付け
できたあ...♡

はあ

.....っ

おじさんが
ゴミのような話を
するたびに
生温い吐息が
耳の裏にあたっ
ただただ
不快だった。

僕がぶちまけた
ドロドロザーメン
今たっくんの中
のどの辺に
あるんだろう…

僕のキンタマから
放出された
何億もの
僕の分身が

たっくんの
体の中で散らばって
キミの一部として
一緒に生きて
いくんだねエ…

いやあ…
感動やうなア

ぐんぐん

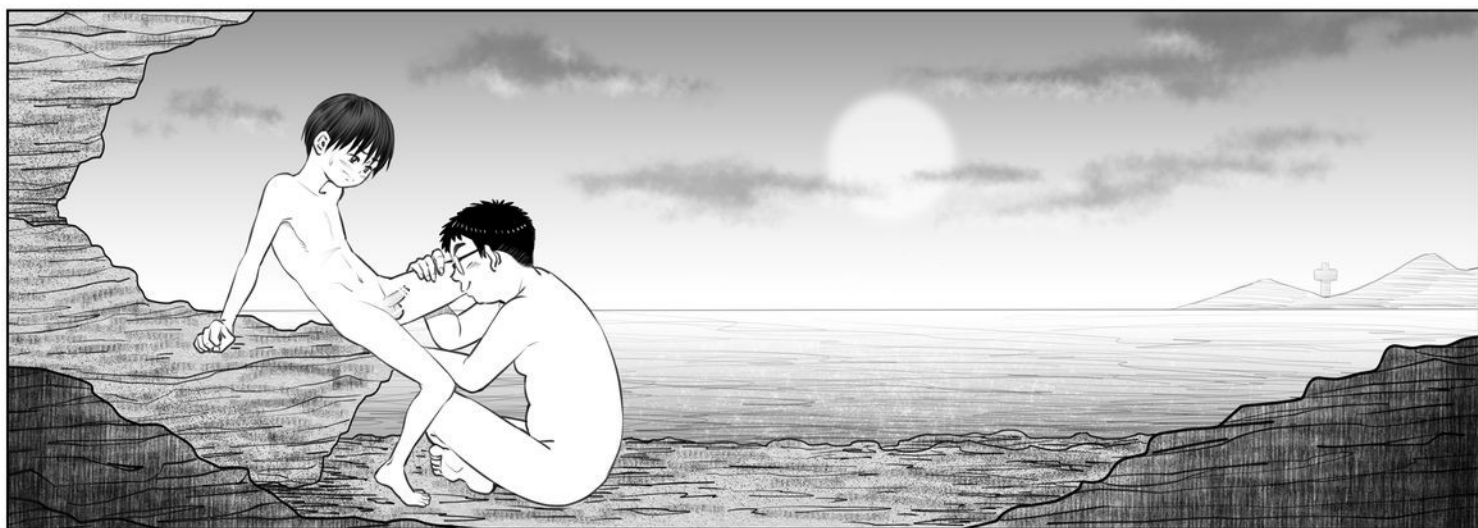
ぐんぐん
ぐんぐん

たっくんの
プニタマちゃんの中
にいる

ミニミニ
たっくんも
僕に分けて
くれるかい？

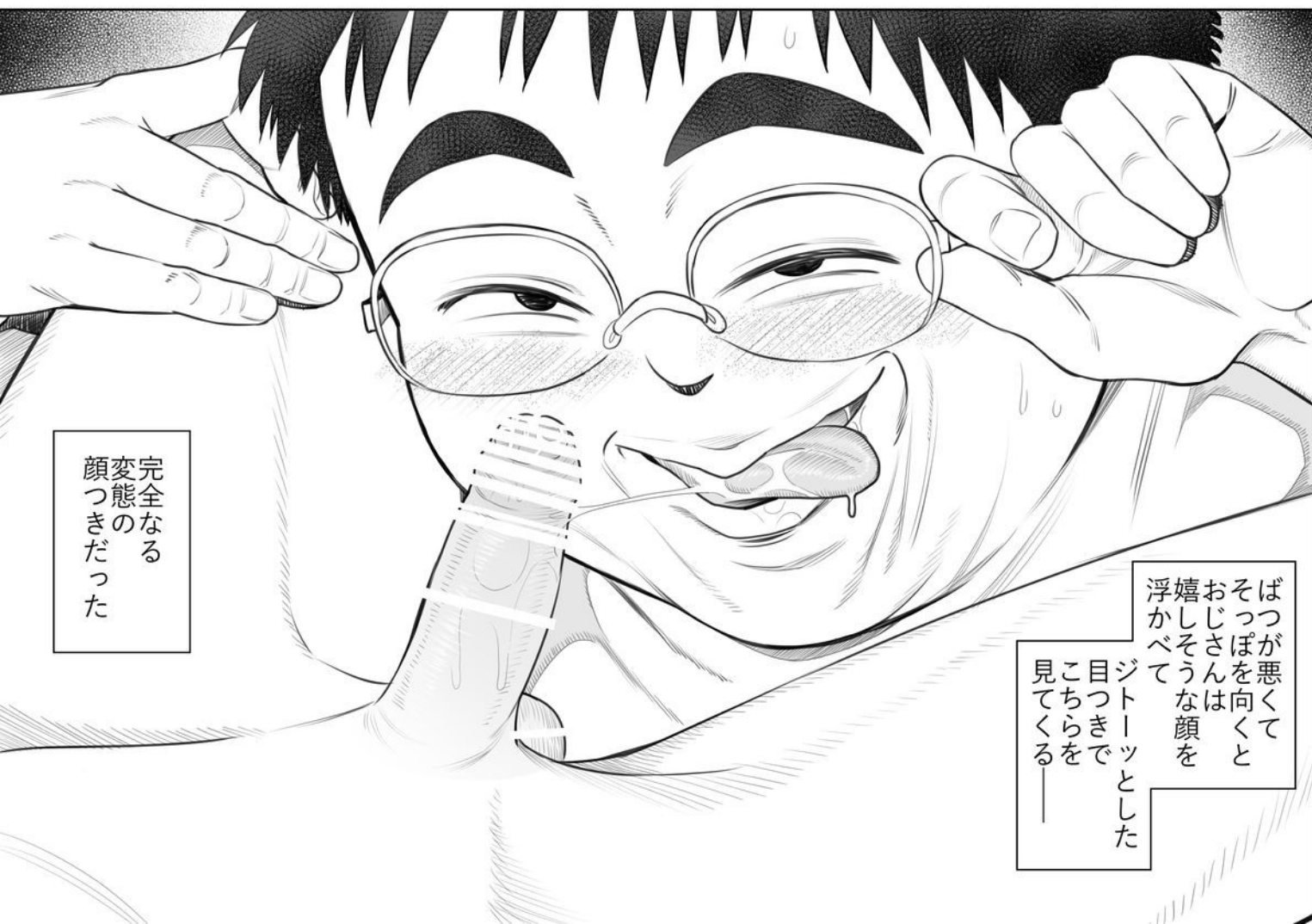
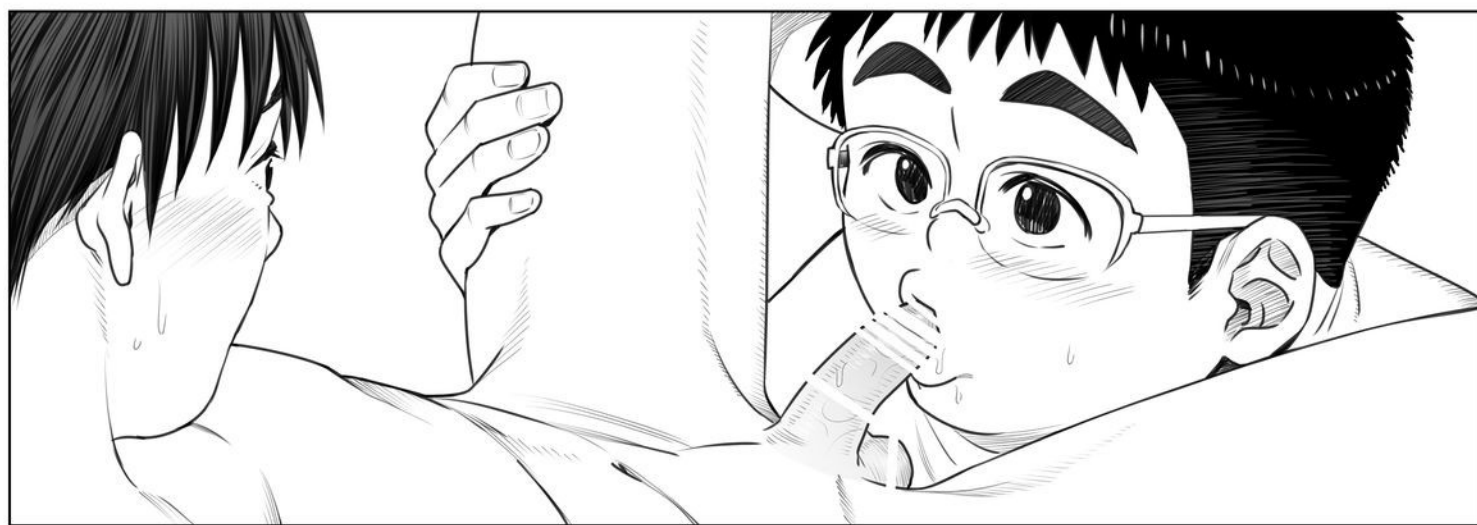


ボクの
チンチン
は
限界だ
——





チンチンの皮の中に
舌を入れた時は
女の子みたいな声は
出てしまった。



完全なる
変態の
顔つきだった

そつが悪くて
おじさんは
嬉しそう顔を
浮かべて

ジトツとした
目つきで
こちらを
見てくる

クラスみんな
パオンモールへ
洋服を買いに
行くこと

修学旅行のこと

親友のヨツちゃんと
ゲーム実況の
チャンネルを
立ち上げようと
していること

ずっと使わないで
貯めていたコインで
一〇〇連ガチャを
回そうとしていること
次の大型アップ
デートのこと――

そんなことを
考えていると
ワクワクして
いく気がする。



今日が終わっても
楽しいことがまだ
この先にたくさん
あることを
思い出したら

体がフワッと
宙に浮く
感じがして

またチンコが
キーンと
なった――







さつきは
我慢できな
なつで

仕方なく
お漏らし
しちゃう
みたいだ
った
から

今度は逆に
全部ぶちまけて
やるつもりで



腹筋を
キュッと締めて
尻の穴に
力を入れたら

クジラが背中から
潮を吹くみたい
にチンコの先から
勢いよく
なんか出た。

キキキ
キキキ
キキキ



あのキーンとくる
感覚を自分から
迎えにいったら

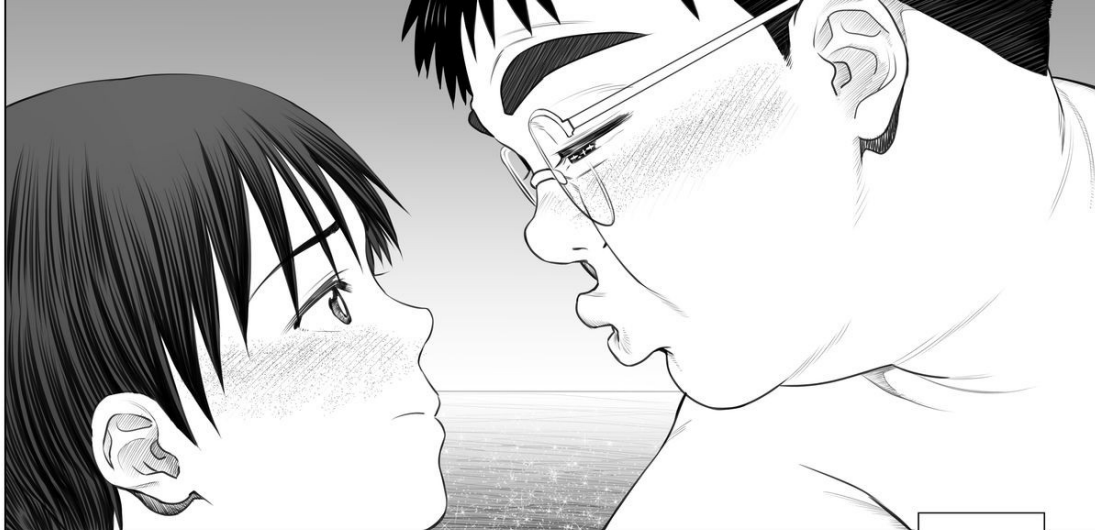
ガッ
ガッ
ガッ

何だか
笑っちゃ
うくら
い
鼻水が
ちよつ
と垂
れた。

おじさんも
満足そうに
ほほ笑んでたー



ちよっと
気まぐしくなっ
て
しばらく
見つめ合った



しばらく
喋らないで
いたら—



おじさんが
チューして
きた

ふにっ



ワッ
ッ



舌が口の中に
入ってきて
ボクの舌を
追いかけて回してる



おじさんの舌は
電気ウナギ
みたいで
口の中が
ビリビリした。

ワッ
ッ

さっきまで
あんなに頭の上で
ギラついてた太陽は
海に沈み
はじめていて――

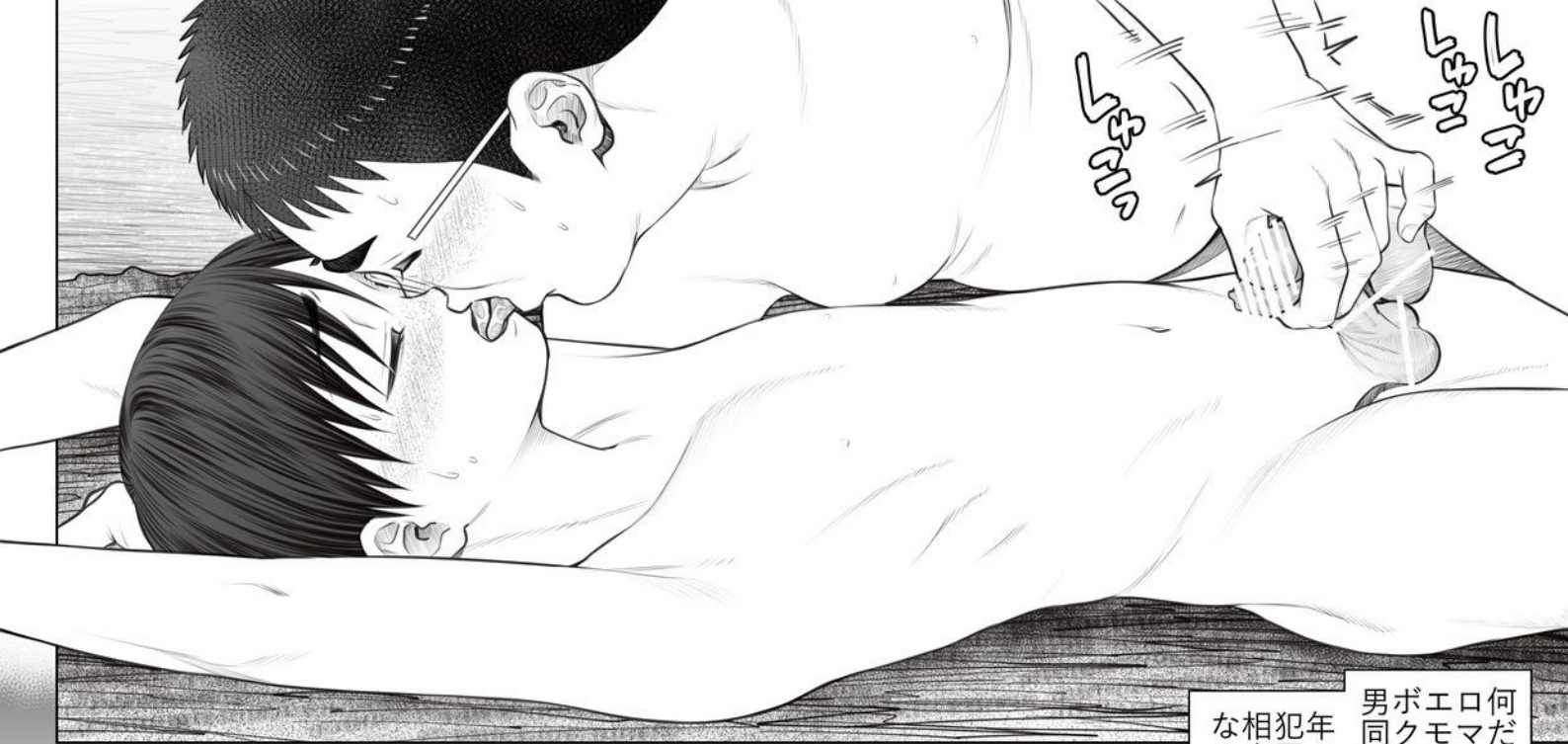


ズンズン

ズンズン

ドゥ
ドゥ
ドゥ

オレンジ色の
太陽が眩しくて
ボクは目を細めた。



何だか
ロマンチックで
エモい状況だけど
ボクたちは
男同士だし――
年の差も
犯罪級にエグいし
相当ヤバイ案件
なんだと思う。

きっと多様性の
一言では
片付けられない



—母さんが
今のボクを見たら
どう思うんだらう



言葉を失って
ひどく
悲しむのか――

ボクのこと
を叱るのか――

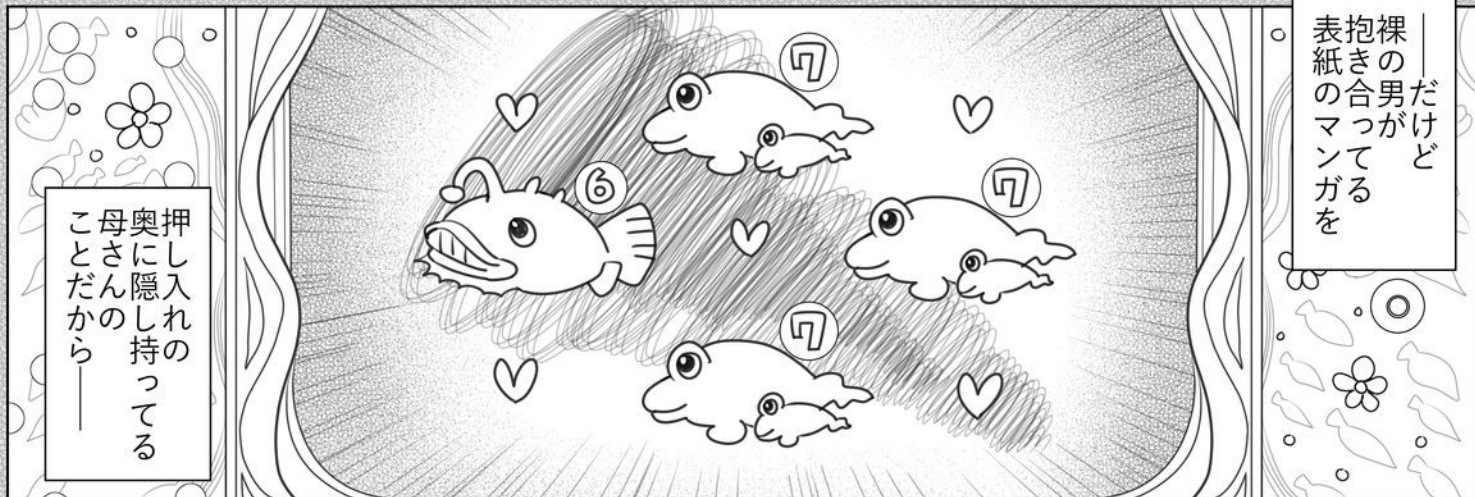
呆れて
何も言わない
のか――



それとも
泣きながら
抱きしめて
くれたり
するんだろうか――

どれも
うまく
想像できない。



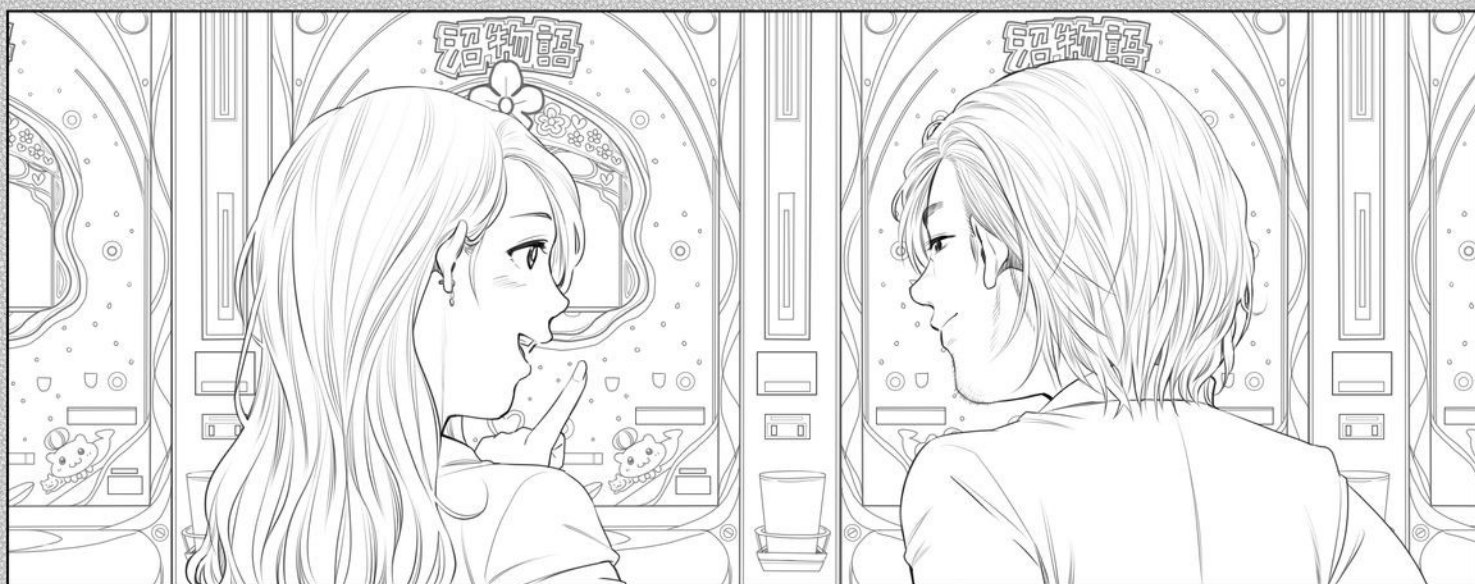


裸の男が
抱き合っ
てるのを
表紙のマン
ガを

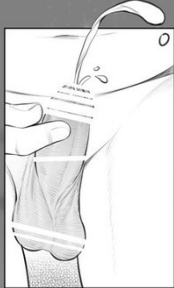
押し入れの
奥に隠し
持ってる
奥さんの
母さんの
ことだから



案外受け入
れてもらえ
るのもし
れない。



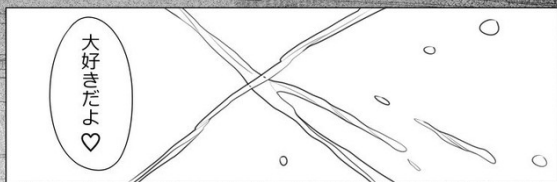
新しい彼氏と
似たようなこ
とをボクが知ら
ない場所であ
るかもしれない



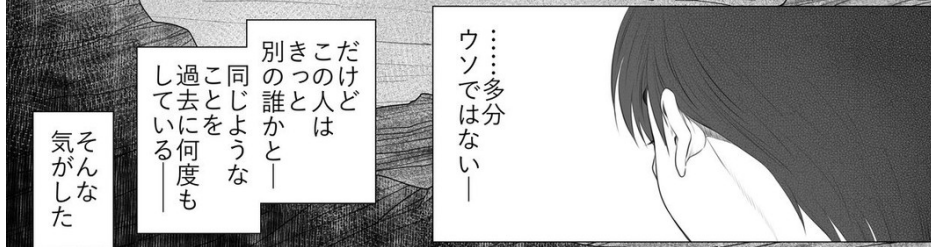
…おじさん
ボクのこと
好き…?



もちろん…



大好きだよ♡



…多分
ウンではない—

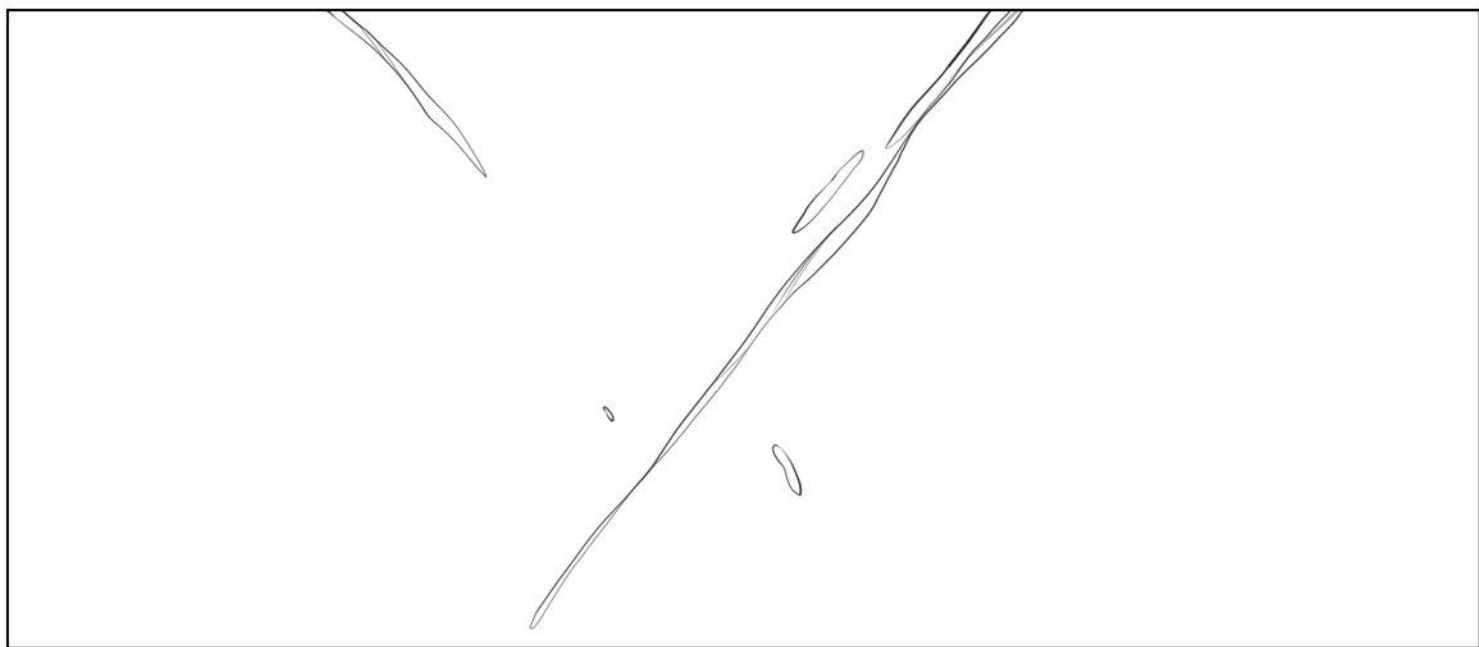
ただこの人は
きつと
別の誰かと—
同じような
過去に何度も
している—

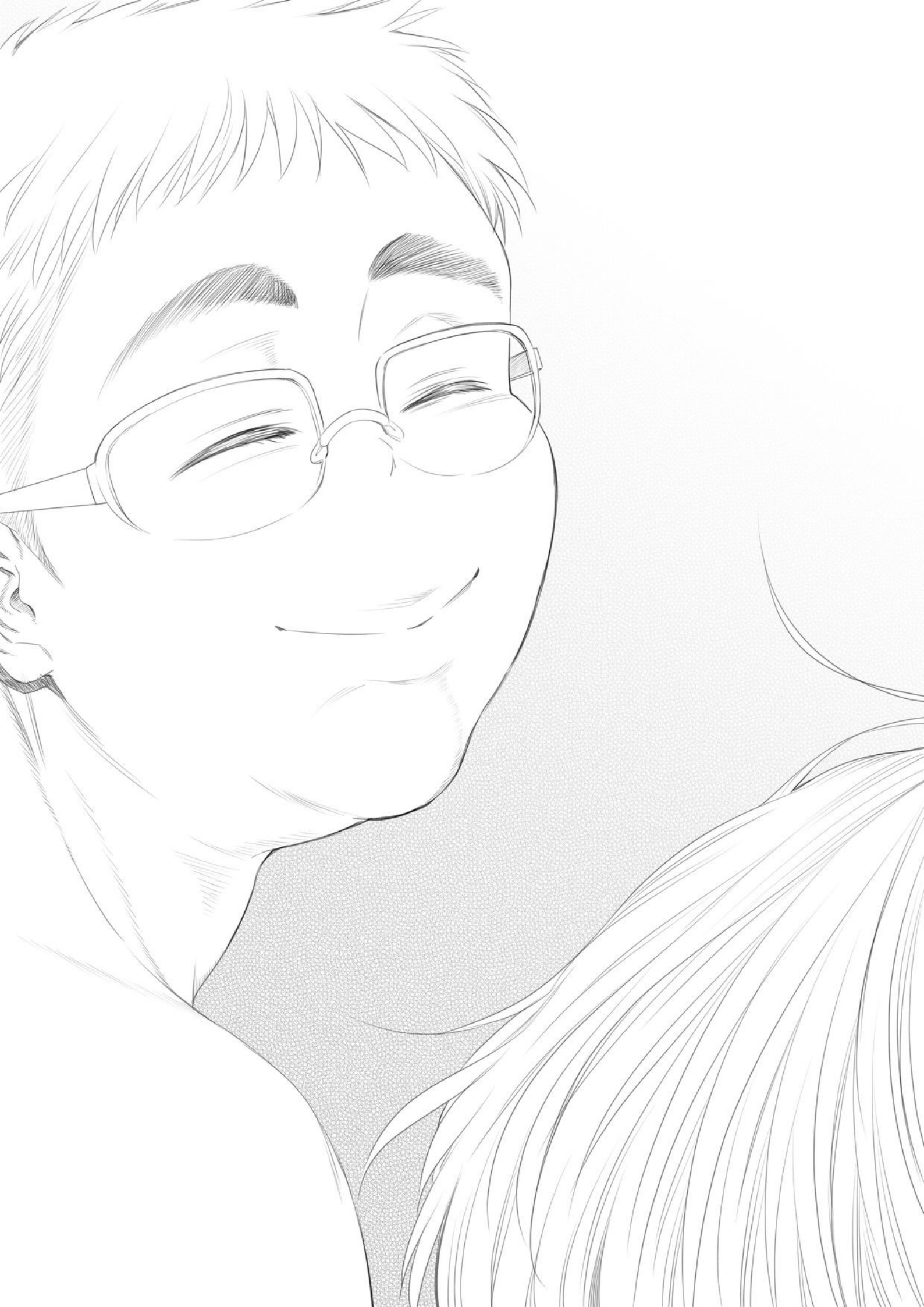
そんな
気がした

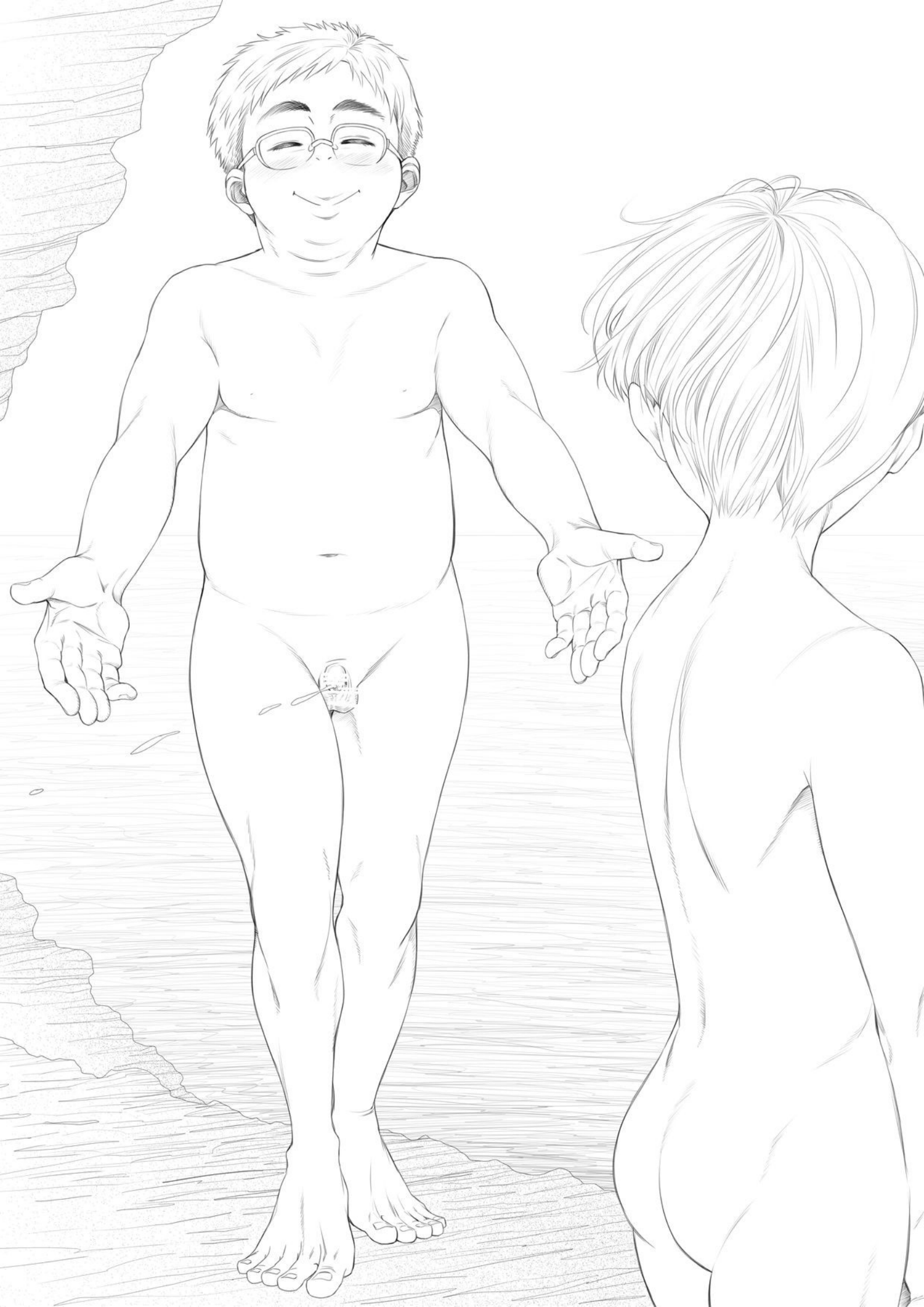
この人が
好きなのは
ボクの体だけで
それをお金で
買ったってこと
なんだろう――

……ボクも
おじさん
好きだよ。

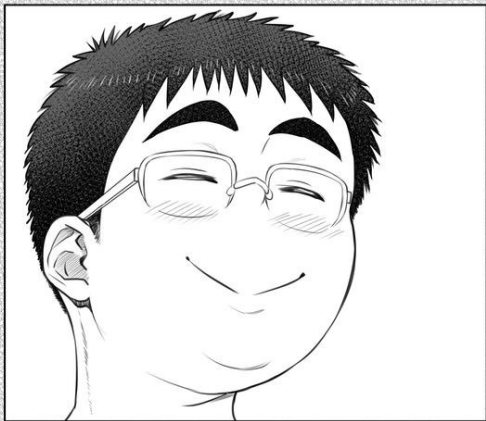
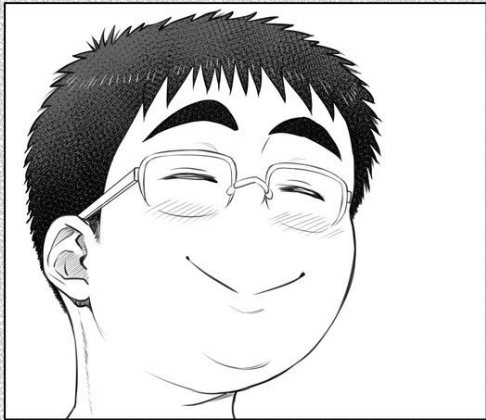
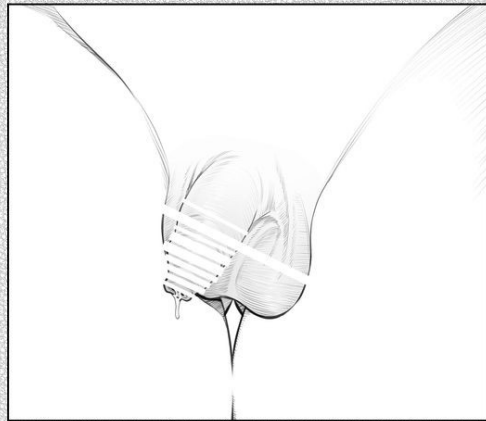
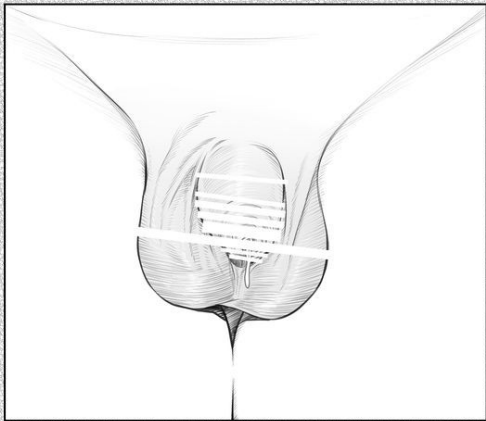
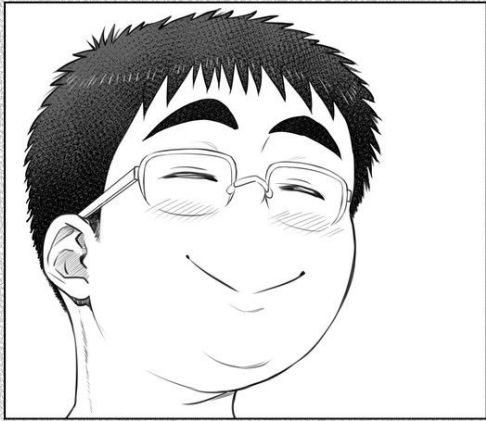
半分ウソ。
だってボクは
おじさんの体が
全然好きじゃ
ないから――

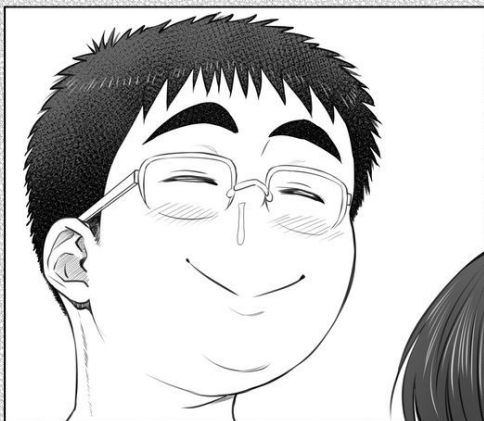
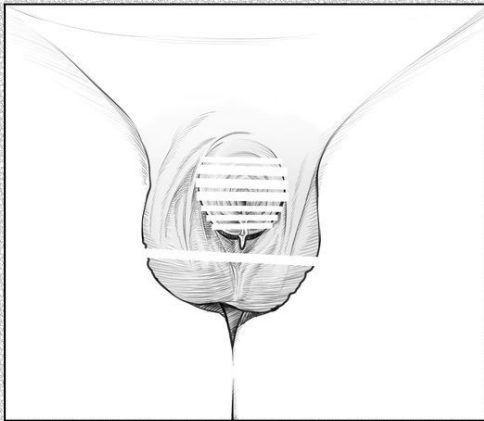
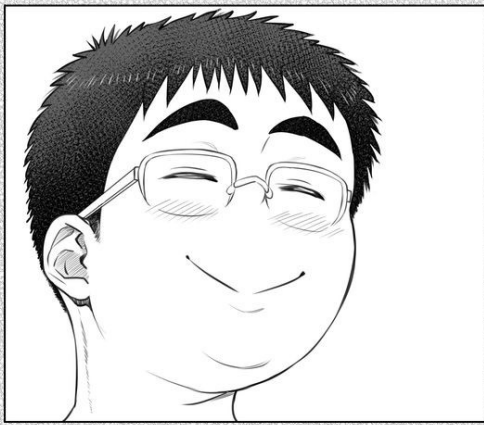












母さんが
コロコロと彼氏を
替えるみたいにな

この人もいずれ
別の誰かの
元へ行くって
知ってる――

母さんは明日も
朝から化粧をして
ボクの授業参観にも
履いてこないような

花柄のひらひら
スカート履いて
出掛けるんだらう

ボクはまた
浮かれ顔で帰って
母さんを夜遅くまで
待っているん
だらうな――



——風に
運ばれてきた
生臭い
磯の匂いが

少しづつ
ボクを現実へと
連れ戻して
いった——
……

——夕陽が
海の向こうへ
沈んでいくのを
眺めたらあと

銭湯に寄って
駅前でおじさんと
別れた。

別れ際に
一万円札を
握らされた。

コンビニで
うがい薬と
シュークリームを
2つ買って

明かりの
点いてない
公団の家
に帰った。

